

# ポジティブ生徒指導入門 第4回

## 望ましい行動に目を向けよう

担当者	宇田 光 (南山大学教職センター 教授)
概要	<p>日本の学校で先生方は、切磋琢磨する学級集団をつくろうと努めてきました。そして、好ましい学級雰囲気は、高い学力にも結びついています。こうした学校の強みの反面、不登校やいじめなどの問題もなかなか解消できません。外国の学校での実践から学ぶことは、ないでしょうか。</p> <p>米国の学校では、生徒指導の枠組みとして、カウンセリングやTET (教師学)、ゼロトレランスなどが用いられてきました。でも、その限界や問題点が指摘される中、最近になってPBISという問題行動の予防を重視した試みが行われています。ポジティブな行動支援、あるいはPBSとも呼ばれます。それは急速に大きな流れを形成し、PBIS実践校は2万校におよんでいます。</p> <p>PBISにおいては、生徒が取るべき望ましい行動を、3つの段階でポジティブに指導します。実際PBISを導入することで、行動面、学力面ともに、好ましい成果が報告されています。</p> <p>日本の先生方は非常にお忙しいので、この講座は参加しやすいように半日で設定しました。ポジティブ生徒指導の概略をご紹介します。またPBIS第一段階での取り組みを中心に体験して頂きます。学校の先生方を主な受講者として想定していますが、教育に関心のある方であればどなたでも歓迎いたします。</p>
日程	2024年8月3日(土)9:00~12:00
定員	30名
会場	南山大学 D棟 D51教室
受講料	3,800円 (税込)
メルマガ講座報告	<p style="text-align: right;">担当講師 宇田 光 記</p> <p>米国の学校での生徒指導にかかわる枠組みであるPBISを中心に、簡単にご紹介する入門講座で、開催は4度目となります。今回は、8月3日(土)の午前に実施しました。参加して頂きやすいよう、本センターの公開講座としては最も短い3時間枠となっています。</p> <p>生徒指導が主なテーマなので、例年は受講者の大半が学校の先生方です。今回は意外なことに初めて、企業を営む立場の方が多く参加されました。</p> <p>「部下を育てたいが何かヒントが欲しくて」、とか「親として子どもにどう接したら良いかと思って」来ました、という受講動機が挙がっていました。</p> <p>アンケート結果から受講者の感想を拾うと、「少人数で話しやすかった。ビジネスマンのお話を聞けてとても興味深かった」、「教職員向けの子どもに対するアプローチかと思っていたが、大人にも通用する」、「演習がとてもためになった。よい習慣に気づき続けていくことが大切」などでした。</p> <p>私自身も、グループでの討論に参加させて頂きました。多様な現場で豊富な経験をお持ちの方々のお話は、実に刺激があって勉強になります。受講者のみなさま、暑い中を熱心に参加して頂きありがとうございました。</p>